

地理教材としての地形圖 (第十七)

三 津 (瀬戸内の一例)

三津(五萬分一地形圖廣島三號)

參照圖 海圖第百六十三號日本内海柳瀬戸至猫瀬戸

忠ノ海附近が要塞地であつた爲めに永く地學愛好者の手にするところを得なかつた五萬分一三津圖幅の祕密が解かれて今春から發賣された。千島や五島の様に昨年までは發賣されてゐた陸地測量部の地圖が今年にはもはや新に購ふことが出来なくなり、年と共に我等の利用の途が狭められてゆく多くの實測圖のうちはこの三津圖幅は例外なものである。珍らしいと云ふことに刺激されてすぐこの地形圖を讀んで見たくなつた。尤も、さから公刊されてある上掲の海圖は三津圖幅よりも少しく廣く、縮尺は五萬四千七百十分の一であり、非布星羅せる島々の高點は詳しく記されてあるから陸上の方の形も模索するには充分であつた。

三津圖幅の北から西へかけては安藝豐田郡及賀茂郡に屬する中國の南岸が現はされて居る。而して圖の大半は瀬戸内の一部の海面並に安藝と伊豫とに屬する數多くの島嶼が占めて居る。中國の方の沿岸を見ると海岸の出入がかなり

地理教材としての地形圖

劇しく、山の裾が直に海に迫つて居て、たゞ入込みの奥の方に小平地がある。この圖幅内では竹原三津及内ノ海の三の町と賀茂郡早田原村風早とに接した平地が著しい。灣入の奥に平地がある爲めに岬角の方は尖つて居るが灣形は海に面して凹形に丸味を帯びて居る。沿岸に平地がなくて小刻みに出入の多い海岸はリアス式と云はれて居るが、之に似てこゝの海岸の様に廣さ一杆位の灣入が半圓狀を成して相接するのをカラ(Cala)式地中海のバレアル諸島やマルタ島でさう呼ぶのから名づけられた。だど云ふ。山崎博士の瀬戸内の地形考察(ペーテルマンス・ミッタイルンゲン第四八卷一九〇二年所載)の中に「狭い音戸の瀬戸の東方には花崗岩塊から成るカラ式の岩多き海岸が延びて居る。安藝灘と之に接した備後灘との間には狭い海峡で分たれて居る無數の島々がある。」と既に書か

れて居る。然るに其の後シュレーテルは朝鮮の海岸に關する論文 (W. Schröter: Korea und die nasserwandten Küsten dieser Halbinsel, 1904) で、海岸を論ずる場合には之に接して海に浮んで居る島々の状態をも考へに入れなければならぬことを高潮してこの瀬戸内の一部ではカラ式の海岸の前に海岸から分裂した島嶼があるから寧ろ朝鮮南岸の渠の朝鮮式海岸に近いもので後來海岸線の測定によつて定めらるべきであると説いた。この地形圖の説明に當つて未だ附近海岸線の圖上測定を行つて居ないので其等の考察を行ふことの出来ないのを遺憾とする。

中國海岸で著しいのは竹原と早田原村と三津口村との沿岸に白く圖上に殘された鹽田である。又竹原の南西に當る賀茂郡吉名村の東部の奥深い灣入に其の口に近い所で堤防が築かれて其の内灣をやがて平地にする様にされて居ることである。瀬戸内が地盤の沈降によつて出來た海なるにも係らず人が努力して新しい土地を得やうとするのは人口の密度が高くなつて來るに從

て益々盛に行はれべき事業である。

島のことを述べる前に主要な水道 瀬戸に就いて略言して見やう。圖の東北隅に當つて本陸と大三島との間に開いた瀬戸は三原の瀬戸の西口である。尾ノ道、糸崎及三原から西方に向ふ航路は此の瀬戸の南方即ち大久野島と大三島との間を東北東から西南西に通つて漸次南々西に轉じ大崎上島の東側を南下する。此の線は南方安藝灘を北上する潮流の路であつて、爲めに大崎上島の南東端中ノ鼻の東には北々東—南々西に延びた海渠があり其の最深部は中ノ鼻の東方僅かに三鏈（三ツ）にあつて深度六十尋に達する。航路はこゝから南に大下島（オウゴ）と小大下島（コオウゴ）との間の潮流一時間三湮半に及ぶ大下瀬戸を通ずる。而して安藝灘の東部に出る。上述の航路を安全にする爲めに大久野島の南端、大崎上島の北東端なる鯨崎（イナヅキ）と其の南東端なる中ノ鼻並に大下島の西端とに燈臺が設けられて居る。

この主要航路を通らずに大久野島の南方から西に向ひ、横長い阿波島の南をすぎると、北は

本陸南は大崎上島の北西に羅列する生野島、もと製鍊所のあつた契島、臼島、長島、津久賀島等の狹長であるか又は水平的肢節に富んだ石英斑岩から成る島々との間に北東から南西に延びた水面は柳ノ瀬戸である。柳ノ瀬戸は總じて深度四十尋以下で東西に延びて北方に三津灣、北西に内ノ海灣の入込みがある爲めに廣くなつてこゝに瀬戸の海の稱がある。遂に西して三津圖幅外に出で本陸の南岸に沿うて西に向ひ、潮流一時間四哩の猫の瀬戸に結ぶ。

三津圖幅内の島嶼は東北東から西南西へかけて連なつて居ると見える。私は嘗て安藝灘の島嶼を其の羅列の有様や地質や島形から東西の二群に別けて見た、廣島圖幅地質説明書一九頁即ち三津圖幅内のものは其の東部のものである東藝豫叢島に屬する。三津圖幅内の島で面積〇・五平方呎のものを擧げると次の如くである。

大三島、大横島、コナゲ大下島面積一平方呎八二五、コナゲ小大下島、岡村島(三・三〇〇)、大久野島、阿波島、生野島(二・三二五)、臼島、長島(一・〇七五)、七々見島、大崎上島(三・七四〇〇)

地理教材としての地形圖

大芝島(一・八二五)、大崎下島(一・七・七七五)、ミカド三角島、豐島(五・五二五)、カガリ上浦刈島

此等のうち大三島は最も大きく伊豫第一の島であるが三津圖幅内には其の西部のみしか含まれて居ない。西側の臺の浦に瀕する宮ノ浦の平地には、三島大明神と崇められ、百濟神だどされる大山積神社がある。往古大陸との交通點になつて居つたのが察せられる。大三島に次ぐ大崎上島は南に廣くて東西に延びた急な山地が注目に價する。南岸の明石方附近の緩斜地は花崗岩であるが背後の山地は石英斑岩から成つて居る。島の東岸に狭いが賑はしい木ノ江港がある。

大下瀬戸の西側の小大下島は小さい島であるが殆んど全島が古生代の石灰岩から成り立ち白色の岩體を間々裸出して海からの目標になる。四方に搬出するのが便利な爲めに盛に採石する。石灰岩や又は燒製された石灰は山陽道を初め大阪に輸送される。大崎上島の東岸や南岸には石灰窯の符號が數多く描かれてあるが其の原石は

小大下のものである、猶山陽本線に沿うて見られる石灰窯で用ひられる石灰の原石は大方このものである。小大下と岡村島とを併せて岡前村と云ひ伊豫越智郡に屬するがこの南方だと思ふ關前灘からは嘗て舊象の長さ五尺もある牙や其他臼齒、脊椎骨などが網にかゝつて拾はれた。大崎下島の大長村の漁夫が獲たので其の後神社に納めたと云ふことである。それは小豆島の附近と同じ様に沈降した洪積世の湖成地層がこの海の底に沈んでゐる證據となる。小大下島の石灰洞の中から出たといふ獸骨は現世の鹿などであつたからそれは海底中のものとは關係がない。

大崎下島は御手洗島ミテラシとも大長島ダイチヨウとも稱される地形圖を見ると島の東面、大長村内は殆んど全部果樹の記號で満たされて居る。こゝは昔から桃の名所であつた。今では桃は少なくなり夏蜜柑が植えられ年に貳拾萬圓以上の産額があると云ふ。岡村島の西面にも果樹の記號があり、地形圖では豊島トヨや上蒲刈島に果樹を記さないが水路誌(大正十年版)によると共に島周密柑を以て

蔽はれ後者のは蒲刈密柑として著はれて居る。ある。明治三十一年の地形圖測圖以來地物には大きな變化があつたと見られる。實際關西地方の人文は日と共に變つてゆくこと云つてよい。内ノ海灣口の大芝島も果樹の記號で其の半島を蔽うて居るがこゝと北方三津灣内の藍之島及龍王島には桃林が多いと云ふことである。この三津灣附近は石英粗面岩から成つて其が風化するると赤色を呈する。本陸には柳ノ瀬戸の北側に赤崎があり小芝島の南西崖は赤いと云ふ。

東藝豫叢島の島嶼は廣島灣の南方に位する西藝豫叢島の島々程には水平的肢節に富んでは居ないが猶大三島や生野島や大崎上島は葉狀島(Celapite Insel)と云ひ得る。若し夫れ此等の島々の海岸線を圖上で測定し之を西方の倉橋島や能美島やの甚しき肢節を持つた島のと比較したならば面白いことゝ考へる。私共は概括的ではなしにもつと數量的分解的に地形を讀むでから後で總括の決論に到達したいものである。

云ひ残したが圖幅の北邊なる忠ノ海、竹原、

三津は造酒で著はれて居ると同時に竹原は近世柄崎、頼二家の文學を以て聞えて居る。(中村)

談 叢

吾妻山破裂の追憶

比 企 忠

明治二十五年には岩代の磐梯山が破裂し、二十六年には其隣りの吾妻山の爆發があつた事は今五十歳前後の人の記憶に残つて居るであらうと思ふ。磐梯山は其山部の大半を破壊して谷を遮り大な湖水を湛へ洪水を流して人畜に大な損害を與へたので有名となり、吾妻山は學術探検者である理學士三浦宗次郎君と其從者の西山惣吉君とが不幸爆發に遇ふて非命の死を遂げられたと云ふので名高くなつたのである。

吾妻山の破裂は新しい事實ではないが此度地

球は火山號を發刊せらるゝと云ふし、夫れが偶然にも本年は三十三回忌に相當して居るし、又三浦君と同時に遭難した西和田久學君と筆者はまだ健全であるのでこゝに爆發當時の模様を述べて火山史の一部を簡單に繰返し讀者諸子の想を新にし職に斃れたる兩君を追悼することも無意義でなからうと考へ貴重の紙面を塞ぐことゝした。

吾妻山と云ふのは澤山の火山の集りであつて其内の一番大きな火孔を持つて以前に硫黃を採集したことのあつた一切經山と云ふのが活動を始めたので磐梯山の如く山は破壊したのでなく唯火孔が少し大きくなつた位である。最初の爆發は五月十七日頃であり次に其月末と六月の四日とに大破裂と稱すべきものがあつた。之を調査する爲めに在學中の西和田君と筆者とが大學より出張を命ぜられ五日に出發した。丁度農商務省地質調査所よりは三浦西山兩君の出張があつて福島市で落合つて共に翌日登山して半日探見した。其間澤山に大小の爆發があつたが其勢力